

# 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 7月 1日

事業所名 放課後等デイサービス リリーベル

		チェック項目	はい	どちらとも言えない	いいえ	工夫している点、 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			適切な利用定員(概ね6~7名)を超える場合については、施設外活動など分散化に出来る限り努めている。
	2	職員の配置数は適切である	○			職員のほか、活動に関しては適宜、ボランティアの参加も頂いている。
	3	事業所の設備等について、利用児への配慮が適切になるよう考慮している	○			活動内容を含め、施設外での活動を随時行い、事業所の設備の活動補完を行っている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			本事業所で活用しているPDCAモニタリングシートにより、保護者や本人に限らず、職員も回覧する事で職員間の連携・情報共有を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげていく	○			早急に実施する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開していく	○			早急に実施する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげていける様に計画である	○			現在、困難事例などについては管轄関係機関に相談を行い、対応の評価・諮問を随時に受けているが、平時を含めた全体の評価機会の実施については、現在計画中である。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			緊急事例や困難事例に限らず、適時実施している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			本事業所で活用しているPDCAモニタリングシートはサイクルの趣旨である「出来る事・出来た事」を的確に保護者や本人と職員とで、前向きな認識の共有に努めている
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			本事業所で採用しているPDCAモニタリングシートにおいて、サイクルの趣旨である「出来る事・出来た事」を的確に保護者や本人と職員とで、前向きな認識の共有に努めている。
	11	活動プログラムの立案を適切・適時に行っている	○			参加メンバーの見直しに対して、適切・適時に行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			活動プログラムの概要が同一でも、参加メンバーに応じてルールや方法に変化を加えている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			課題や改善すべき点については職員側の視点ではなく、個々の子どもの「やる気・意欲」とのすり合わせで提案している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			課題や改善すべき点は職員側からの視点ではなく、その子の「やる気・意欲」を尊重して提案を行っている。
	15	支援開始前には職員間で打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			すき間時間を活用して、適時、行っている。
	16	支援終了後には、職員間で打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			すき間時間を活用して、適時、行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			適時、行っている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			PDCAモニタリングシートを活用してサイクルの趣旨である「出来る事・出来た事」に適切に反映する事で、支援の的確化に努めている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			活動内容とすり合わせの上で適宜、行っている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		実経験に伴う「見通し」の立てられる者が参画している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		実経験に伴う「見通し」の立てられる者が参画している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合については、子どもの主治医等と連絡体制を整えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、そして児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する方がおられた場合については、それまでの支援内容等の情報を提供する等の準備を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会については、本事業の利用児の特性から、現在は調整中である。
	27	自立支援協議会等へ積極的に参加している	○		自立支援協議会への参加を、現在検討中である。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について「認識のズレを埋め合わせる」働きかけを行っている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		子どもの状況と保護者の状況に応じて、支援の検討を行っている状況である。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		運営規程、支援の内容、そして利用者負担等について丁寧な説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報に十分注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況・課題について、認識のズレを埋め合わせるための働きかけを行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っていく	○		事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っていく様、検討中である。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		昨今の「新型コロナウイルス対応」を含めて、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知を行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している。
	42	各過敏がある子どもに関して、出来る限りの対応を行っている	○		「嗅覚・聴覚・接触」など各過敏がある子どもに関して、出来る限りの対応を行っている。
	43	ヒヤリハット事例研修を行い、事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例研修のほか、困難事例研修をも行う事で、事業所内で共有している。